



Team Dainan

八千代市立大和田南小学校
《校長室だより》
令和3年度 第14号
令和3年 6月24日

二千年の時を越えて受け継がれるもの ～6年生勾玉づくり教室～



6年生は、社会科の学習で歴史をはじめて学びます。保護者の皆さまも縄文時代や弥生時代について学んだ記憶があるのではないのでしょうか。

今回、子供たちに歴史のロマンを感じてもらいたいと考え、八千代市郷土博物館から2名の先生をお招きし「勾玉づくり教室」を実施しました。歴史学習の一環ということもあり、八千代市の古墳からの出土物についてもお話をしてくださいました。

八千代市に人が住み始めたのは、3万年以上前であることや古墳が50基ほど見つまっていることなど

写真を交えながらお話をしてくださいました。なかでも、一番大きな古墳は、村上にあるホームセンターのすぐ横にあるそうです。今度、お買い物で行かれることがあれば、お子様と一緒に見学してみてください。

勾玉は、古代の日本における装身具の一つであったと考えられています。当時は、今のダイヤモンドや金に相当する非常に貴重なものでした。現代でも、天皇家に伝わる「三種の神器」に、剣・鏡とともに八咫瓊勾玉（やさかにのまがたま）があるそうです。

勾玉の形に注目してみると、アルファベットの「C」の形に似ています。一説によると、勾玉の不思議な形は、頭の部分が日(太陽)を表し、尾の部分が月を表しているそうです。この太陽と月が重なりあった形は大いなる宇宙を崇拝していたと思われます。そして穴には祖先とのつながりを持つことにより、我が身に降りかかる邪気・邪霊から身を守り、その恩恵を受けたとされています。

今回、勾玉づくりで使ったものは、鉱物の一種の滑石(かっせき)です。鉛筆が高価だった明治時代の初期(約150年前)、小学校では、石板に滑石で字を書いてノート代わりに使っていたそうです。

勾玉の材料となる滑石は、比較的やわらかいため、加工がしやすいのが特徴です。子供たちは、砥石と紙やすりを使い、1時間半ほどで丸みを帯びた勾玉を作り上げることができました。しかし、加工がしやすいとはいえ、ただひたすら砥石で角を削っていく作業です。なかなか根気がいります。講師の二人の先生が口をそろえて、「大南の6年生は、集中力がありませんね。」とおっしゃってくださいました。

科学技術は日々進歩していきますが、勾玉のように悠久の時を超えて現代に受け継がれているものもあります。子供たちは、勾玉にどんな思いや願いを込めて作ったのでしょうか。あるクラスでは、「父の日のプレゼントにするんだ」と言って熱心に削っている子がいました。きっとその子は、家族への感謝の気持ちを込めたに違いありません。

次回は「火起こし体験教室」です。子どもたちの学びに火をつけたいと思います。

